

語り継ぐべき藍染、 そして語り継がれるデニムの創出

「阿波正藍染」は、「通産産業大臣指定伝統工芸」、「徳島県無形文化財指定」の日本伝統の染め技法です。

これまでも本藍染めの名を持つデニム生地・製品は数多く世に出されてきましたが、クロキではもう一度「阿波正藍染」の原点を見直し、「阿波正藍染」の特性・魅力をより深く伝えるデニムを、ひとつのグループとしてカテゴライズしました。

JAPAN SPIRITS 和魂藍

ジャパンスピリッツ わこんあい

これは、日本古来の伝統を継承した藍染めデニム。そして、新たな伝統として進化させた藍染めデニムの総称。日本国内のみならず、グローバルに証の技を伝えるデニムとして世界に向けて発信していきます。（後述技術説明中）



「阿波正藍染」の歴史と技術説明図表として作成した図表



「阿波正藍染」の歴史と技術説明図表として作成した図表

天然藍染(総染め)の特筆すべき2大ポイント

■つなぎ節

つなぎ節は原反表面に現れるコブ状の塊(結び玉)のこと。

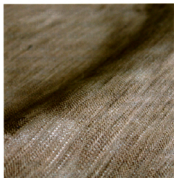
天然藍染めは、糸を束ねた紐を藍染めの中の藍液に漬け、糸にインディゴホワイトを付着させては引き上げて絞る（十分空気に触れさせて酸化させる）という作業を、30回あまり繰り返します。一人の人間がこの作業をするのですから、一回の作業で染められる糸の量は、機械化オートメーションによる人工藍ロップ染めの比ではなく非常に少ないものです。また、30回も繰り返すため、糸にとっては負担も大きく、紐の断や糸切れもあり、糸と糸を結びつぐ必要がある。それがすなわち、つなぎ節として原反の縫所に現れ、独特の風合いを醸し出します。

■酸化ムラ

藍染めは、空気に触れられることにより酸化させて藍色に発色させます。そのため、紐を絞る空気に触れさせる工程で、紐の束のなかで空気に触れにくい部分が出てきます。その部分は酸化しにくいので、当然藍の発色も弱くなります。これを酸化ムラと言います。天然藍染めデニムの原反には、この酸化ムラのため、タテ糸が所々数センチのタテ筋となって薄くなっている部分があります。これもまた、天然藍染めデニム独特のもので、天然藍染めデニムの証あるのです。

JAPAN SPIRITS
和魂藍

草木染め



藍と薑が古来からの天然染料（動物・鉱物・植物染料）を使用した唯一無二のカラーデニム。藍染め同様に「総染め」と「ロープ染色」の生地をラインナップしました。

